

総合評価

受診施設名	社会福祉法人 南山城学園 そらの詩保育園	施設 種別	小規模保育事業所
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

2018年5月14日

総 評	<p>社会福祉法人南山城学園そらの詩保育園は、平成27年4月開設された小規模保育園（定員12名）です。二条駅からすぐの立地にあり、電車通勤等の職場の保護者にとって、大変送迎のしやすい保育園であり、延長保育も行っています。母体施設となる、もりの詩保育園とも連携しながら、地域と共に0.1.2歳児の子育てを支える役割を果たしています。</p> <p>そらの詩保育園は、法人の基本理念に基づく、保育理念・保育方針をもとに、小規模保育園として家庭的な雰囲気の中で異年齢保育を実施されています。「先生、あのね」、「いつでも笑顔でいる保育」、「遊びを成長につなげる保育」、「パパ・ママと見守る保育」という保育方針を掲げ、子どもの自主性や社会性を育てるための取り組みを行っています。</p> <p>事業所内は、ワンフロアですが、テラスがあり、保育用具を用いて遊びの場所と食事の場所を分けたり、乳児の居場所を柵で囲ったりと、安全面、機能面に配慮した配置になっていました。木の素材のものを使ったり、食事の時に使用する椅子にも、子どもと保育士の視線の高さを合わせる工夫があるなど、子どもが安心して過ごせるスペースとなっています。</p> <p>0.1.2歳児は成長が早く、保育園内の様子だけでなく、24時間シートや、パーソナルシートを活用して保護者にも記入してもらい、お互いに子どもの様子を把握するなど、保護者との情報共有にも力を入れておられました。また、子どもの日々の様子や、検診の結果などは、「さくらシステム」でデータ管理し、職員間でタイムリーに情報共有しておられます。また、おむつや昼寝セットは保育園で用意したり、延長保育の実施や大規模な行事を極力少なくする等、0.1.2歳児の保護者が働きやすい環境も整備されていました。</p> <p>組織体制もしっかりと整備されており、法人の「ネクストビジョン2020、同2025」という中長期計画に基づいた、単年度の事業計画がきちんと策定されていました。職員の育成にあたっては、キャリアアップ制度により研修が体系化され、人材育成やストレス管理にも丁寧に取り組まれています。</p> <p>地域との交流も、母体施設となる、もりの詩保育園とも連携しながら、親子セミナーやカフェのモーニングサービスを提供して高齢者と園児の交流をはかっています。</p> <p>一方で、プライバシー保護にかかる規程の整備、苦情等の公表等に課題が見受けられました。</p> <p>保育園は現在最も、ニーズの高い福祉分野の一つです。小規模保育所としても、卒園後の課題も含め、今後も地域や保護者に寄り添いながら、子どもたち一人一人の発達を大切にする質の高い保育実践を続けて、子育て世代を支えて行かれることを期待しています。</p>
-----	---

<p>特に良かった点(※)</p>	<p>Ⅱ－４ 地域との交流、地域貢献 小規模保育事業所であるため、同一法人内の母体施設であるもりの詩保育園と連携をして、「体を動かす機会の親子運動遊び」や「未就学児のための親子セミナー」に歯科医師を招き、子どもの歯の話など親が相談しやすい機会を設けています。また、地域自治会との連携して、カフェのモーニングサービスを提供して高齢者と園児の交流をはかっています。これらの取り組みは、保育理念、保育方針の具体化に向けた取り組みとして高く評価できます。</p> <p>Ⅲ－２－（３）①②福祉サービス実施の記録が適切に行われている。 日々の保育の実施記録は、「サクラシステム」を使い、パソコンに入力して職員間で共有できるように取り組んでいます。また、園だよりやパーソナルシート等の記録の書き方については、保育士によって差異が生じないようにマニュアルも整備され、個別指導もしています。 記録の管理体制についても、法人の個人情報保護規定を遵守し、個人情報に関する書類は鍵つきの棚に保管しています。データ閲覧については、「サクラシステム」でパスワードを設定し、閲覧を制限しています。</p> <p>A－１－（３）①子どもの健康管理を適切に行っている。 マニュアルを整備するとともにしおりや入り口の掲示板を活用して、常時、必要な情報を掲示して保護者と情報共有をしています。 また、SIDS対策として研修を受講するとともに午睡中は10分間隔で呼吸確認を行うなどの対策に努めています。</p> <p>A－２－（２）①保護者等が安心して子育てができるよう支援を行っている。 保護者会と連携を密にして、安心して子育てができる体制にあります。送迎の際のコミュニケーション及び連絡帳の記入に加え、パーソナルシートを毎日、保護者に配布し、日々の様子を伝えています。 また、保護者に24時間シートを記入してもらうことにより、家庭での様子も把握しています。個別な相談内容は適切に記録して職員間の共有や場合によっては、関係機関と連携して対応しています。</p>
<p>特に改善が望まれる点(※)</p>	<p>Ⅲ－１－（１）②子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。 子どもの虐待防止や個人情報保護等の規定やマニュアルは整備され、職員の理解も図られていました。しかし、子どものプライバシー保護についての規定やマニュアルが整備されていませんでした。子どものプライバシー保護とは何かを職員間で再確認をするとともに明文化されることを期待します。</p> <p>Ⅲ－１－（４）①苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。 法人ホームページや1階掲示板にもCNN（苦情処理ネットワーク）の苦情解決の仕組みは掲載していましたが、しかし苦情にかかる結果の公表については、確認できませんでした。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

保育所版 対比シート

受診施設名	そらの詩保育園
施設種別	小規模保育事業所
評価機関名	きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2018. 2. 1

保育所評価基準 対比シート (H29年4月～)

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	項番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	a
		3	②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	a
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	a
		5	②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	a
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	a
		7	②	事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a	a
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	①	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	a
		9	②	評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	a

【自由記述欄】

1) 法人理念とは別に保育所として保育理念、方針、目標を掲げている。ホームページに掲載するとともに事業所内に掲示している。保護者には入園時に「入園のしおり」で説明を行っている。

2) 全国的な動向については、全国社会福祉法人経営者協議会や京都市保育園連盟等を通じて把握している。地域のニーズは行政計画をふまえるととも3歳の卒園後の受け皿となる連携施設を把握している。法人の施設長会議（月2回）に参画し、保育のコスト分析や利用率の分析を行っている。

3) 法人の施設長会議や局長会議（週1回）を通じて人材確保等経営課題を明確にしてシルバー人材の活用など具体的な取り組みを進めている。その情報については各事業所間の会議等で周知を図っている。

4) 法人として、「長期ビジョン2025」、「中期経営計画2020年」を立案し、毎月法人の施設長会議において進捗状況を確認するとともに必要に応じて見直しを行っている。

5) 単年度事業計画は、中長期計画をふまえたものとなっており、数値目標などが掲げられ評価を行える内容となっている。組織体制や人材育成等の現状分析は、法人の施設長会議、園長・チーフ会議等で検討している。

6) 事業計画は、年度末の総括の中で職員の意見を反映して、園長・チーフ会議、法人の施設長会議を通じて策定されている。園会議で説明されるとともに施設長会議で毎月振り返りを行っている。

7) ホームページに掲載するとともに園内に掲示している。また、はなの詩だより（月1回）や年報に掲載し、保護者等に配布をしている。保護者アンケートを年1回実施するとともに保護者交流会等を通じて交流を図って意見を聞き取っている。

8) 保育の質の向上については年度末に総括を行うとともに年・月・週・日案ごとにチェック者がおり、定期的に評価を行う体制がある。また、評価結果を分析・検討する場として園会議、園長・チーフ会議等階層別に会議がある。

9) 評価結果に基づく課題については年度末の総括で共有化を図り、次年度の事業計画及び保育課程に反映をしている。実施状況の確認・見直しは、園会議、園長・チーフ会議を通じて行われている。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	項番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
II-1 管理者の責任とリーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	①	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	a
		11	②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	a
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	①	保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	a
		13	②	経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	a
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	14	①	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	a
		15	②	総合的な人事管理が行われている。	a	a
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	①	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	a
		II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	①	職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	18		②	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	a
	19		③	職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	a
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	20	①	実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	a	
	II-3 運営の透明性の確保	II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	①	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
22			②	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	a
II-4 地域との交流、地域貢献	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	23	①	子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	a
		24	②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	a
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	25	①	保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b	a
		II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	26	①	保育所が有する機能を地域に還元している。	b
	27		②	地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	a

【自由記述欄】

1 0) 施設長の役割と責任は、業務項目一覧及び組織図に明示するとともに休憩所に掲示している。不在時の権限委任は施設長または副施設長が必ず出勤するなど明確化されている。広報紙「園だより（月1回）」等を通じて対外的に表明している。

1 1) 京都府集団指導や京都府保育協会等から情報収集し、職員会議等において周知徹底をしている。また、関係法令等は法人で整備されており閲覧できるようにしている。

1 2) 管理者は職員会議等に参加してアドバイスを行うなどリーダーシップを発揮している。職員の意見を反映するために人事考課とは別に面談を年1回行っている。

1 3) 法人本部と連携をし、人件費率や人員配置などの把握をし、経営改善や業務の実効性に取り組んでいる。具体的には、シルバーの活用や加配をし職員の働きやすい環境整備に取り組んでいる。

1 4) 法人として「きょうと福祉人材育成認証制度」の上位認証を取得している。シルバー人材や学生の活用を図り、常時保育の質を担保できるように

加配を含んだ人員配置と計画的な人材確保に努めている。

15) 法人として「7つの誓い」で期待する職員像を明確にするとともにキャリアアップ制度に基づく人事基準が定められている。キャリアアップシートを活用した目標管理を行っている。

16) 人事・労務管理は法人本部で行われ、毎月2回、管理職に有給取得や時間外労働の状況報告がある。法人に南山城学園職員互助会が組織され、また京都府民間社会福祉施設職員共済会にも加入している。ワークバランスに配慮した取り組みとして「くるみん認定」を取得している。メンタルヘルスについてはストレスチェックの実施及び産業医と契約も行っている。法人内に魅力発信チームが設置され、保育部門から2名が参加している。

17) 「7つの誓い」をもとに、各職員のキャリアに応じた行動基準が定められており、育成者との面談を通じて一人ひとりの目標が設定されている。

18) 法人としてキャリアアップ制度に基づく研修体系があり、年間計画が策定されている。研修の見直しについては法人の「人材育成マスタープラン会議」を中心に行われている。

19) 法人のキャリア別研修のほか、個別の職員の希望や課題に応じて研修が受けられるように配慮されている。OJTとあわせOFF-JTとして課題図書が読まれ論文提出が義務付けられている。保育にかかる外部研修にも派遣し、園で伝達職員研修を行っている。

20) 保育園として実習受け入れマニュアル、担当者を整備し、積極的に実習の受け入れを行っている。実習生に対しては学校と連携をしてプログラムを整備している。

21) 法人ホームページに法人理念及び保育所の理念や事業報告等を掲載し情報公開を行っている。また、毎年、法人として、年報を作成している。

22) 小規模保育事業所における財産管理に関する役割が設定されている。定期的に監査法人の内部監査の実施のほか公認会計士による指導を受けている。

23) 地域とのかかわりについては、保育方針に掲げるとともに「入園のしおり」にも記載している。同一法人内の母体施設であるもりの詩保育園と連携をして親子交流会や未就学児のための親子セミナーなどを開催している。

24) 保育所として独自にボランティア受け入れの基本姿勢、マニュアルを整備している。実習前の実習生の受け入れや講師派遣など学校教育にも協力をしている。

25) 関係機関との連絡体制については、マニュアルを整備するとともに掲示をして職員に周知している。入所や卒園にあたっては、行政や連携施設との調整を図っている。要保護児童等への対応は児童相談所や福祉事務所との連携を図っている。

26) 保育部門の研修室を活用して地域向けの研修会を行っている。参加者アンケートをとり、企画に活かしている。

27) 同一法人内の母体施設であるもりの詩保育園と連携をして親子で体を動かす機会の親子運動遊びや親子セミナー・歯科医師を招き、子どもの歯の話題など親が相談しやすい機会を設けている。また、地域自治会との連携の中、モーニングを提供して高齢者と園児の交流をはかっている。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	項番	評価細目	評価結果		
					自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	①	子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	a	
		29	②	子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a	b	
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	30	①	利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	a	
		31	②	保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	a	
		32	③	保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a	a	
	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	b	
		34	②	保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	a	
		35	③	保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	a	
	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	①	安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	a	
		37	②	感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	a	
		38	③	災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	a	
		39	④	不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	a	a	
	Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	40	①	保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a	a
			41	②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	a
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		42	①	アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	a	a	
		43	②	定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a	a	
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		44	①	子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	a	
		45	②	子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	a	

[自由記述欄]

28) 法人理念に基づく保育理念、方針を入園のしおりに掲載している。4つの保育方針にそって、全職員を対象に保育部門全体研修を年3回実施している。

29) 子どもの虐待防止や個人情報保護等の規定やマニュアルは整備され、職員の理解も図られているが、子どものプライバシー保護についての規定やマニュアルが整備されていない。

30) 法人及び京都市(情報館)のホームページに保育施設の情報を掲載している。保育の様子を写真・イラスト・グラフなどを活用し、わかりやすく工夫している。見学等にも随時対応をしている。

31) 保育の開始に当たって、重要事項説明書、入園のしおりに沿って説明・契約している。保育時間の変更などについては保護者向けに文書で連絡し、同意を得ている。特に配慮が必要な保護者への対応については、職員間で共有し対応を行っている。

32) 保護者の意向に沿って、転園にさいしては、保育要録などを提供し、保育の継続性に配慮している。また、保育所の利用が終了した後も相談できることを保護者には伝えている。

33) 法人ホームページや1階掲示板にもCNN(苦情処理ネットワーク)の苦情解決の仕組みは掲載している。公表については、法人内で検討中である。

34) 保護者との個別面談(年1回)やアンケートなどを実施し、意見を集めている。日常的には日々の会話やパーソナルシート・連絡帳を用いて保護者との意見交換につとめている。重要事項説明にも相談窓口等掲載している。

35) 保護者との個別面談(年1回)やアンケートなどの結果を園会議(月1回)で話し合い、保育サービス向上に反映している。保護者対応として「登降園時対応マニュアル」を整備している。

36) リスクマネジメントに関するマニュアルとして「大切な命を預かるために」を整備して対応している。ヒヤリハットや事故報告書を作成し、再発防止に取り組んでいる。全体研修でリスクマネジメントに対する意識を高めている。

37) インフルエンザ・ノロウイルスなど感染症対策・予防のマニュアルに沿って衛生管理を行っている。マニュアルをもとに学習会も開催している。保護者に対しても園便りでも周知につとめている。

38) 法人のBPCを前提に、園独自の消防計画によって、災害時における消防訓練を実施している。災害時において、2日分の備蓄食料や備品等を整備している。

39) 防犯カメラの設置や日中施錠などのセキュリティをしている。不審者対応マニュアルによって、実施訓練に取り組んでいる。

40) 保育指針に沿って保育過程を作成し、期間ごとの事業計画に反映している。年、月、週、日ごとに計画が細分化されている。職員へは、園会議や研修によって周知している。

41) 毎月の園会議で保育の内容について話し合い、評価・改善に取り組んでいる。小規模保育所で改善できない課題については、園長・チーフ会議、法人本部等で検討し、対応している。

42) 入園前のアセスメントに基づき児童票にとりまとめ、指導計画を作成している。策定手順マニュアルが整備されており、各種計画表ごとに担当者がおかれている。アセスメントは毎日の保護者と職員が記入するパーソナルシートを運用して、個別指導計画に反映させている。

43) 個別指導計画の評価や見直しについて、保護者との日々の会話やパーソナルシート・連絡帳など園児の成長に沿って指導計画の変更を月・週・日案ごとにおこなっている。等に伴う手順は「保育事業局指導計画マニュアル」に記載されている。

44) 文章・権利擁護・研修・実習・個人情報保護マニュアルに記録・文章について記載している。10分ごとに午睡チェックをおこなっている。日々の保育の実施記録はサクラシステムを使い、パソコンに入力して職員間で共有できるように取り組んでいる。園だよりやパーソナルシート等の記録の書き方については、マニュアルも整備され、個別指導している。

45) 法人の個人情報保護規定を遵守し、取り組んでいる。個人情報に関する書類は鍵付きの棚に保管し、データ閲覧についてはサクラシステムでパスワードを設定し、閲覧を制限している。情報開示については規定を設け対応している。

A-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	項番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-1 (1) 保育課程の編成	46	①	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b	a
		47	①	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	a
		48	②	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a	a
		49	③	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	a
		50	④	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	a
		51	⑤	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		52	⑥	3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		53	⑦	3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	非該当	非該当
		54	⑧	障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		55	⑨	長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
	56	⑩	小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	非該当	非該当	
	A-1-1 (3) 健康管理	57	①	子どもの健康管理を適切に行っている。	a	a
		58	②	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	a
		59	③	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	a
	A-1-1 (4) 食事	60	①	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	a
		61	②	子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a	a

【自由記述欄】

46) 保育理念や方針に基づいた保育過程を編成し、月案、週案は常に見直しが行われている。保育課程も年度末には総括している。
 47) 保育室がワンフロアで限りがあるが、スペースに分けて子どもが心地よく過ごせるように工夫されている。また、テラスなども活用している。衛生面においては、おもちゃの消毒なども毎日行うなど丁寧になされている。
 48) 小人数での保育のため、担当は決められているが、保育者が全体で各子どものことを把握して対応している。また、子どもひとりひとり個別の指導計画を立てている。保護者と送迎時やパーソナルシートを活用してコミュニケーションを図り、計画に反映させている。
 49) パーソナルシートを活用して子どもの発達に合わせた生活習慣が身につくようにしている。また、0歳児は24時間シートを活用している。
 50) 園庭はないが、毎日の散歩や夏はテラスで水遊びなど体を動かせる工夫がみられる。また、トマトの栽培やめだかの飼育など動植物とのふれあい等も工夫して行っている。異年齢におけるコミュニケーションを通して良好な人間関係が作れるようにしている。
 51) 限られた保育スペースの中で、適時、保育用具を用いて部屋のレイアウトを変更するなど、月齢、年齢に対応した配慮がされている。24時間シートを活用し、保育園での保育に加え家庭での様子もふまえ、個別計画を作成し、発達段階に応じた保育をしている。
 52) タオル掛け、道具箱など個別シールで見た目に判別しやすいようにしており、身の回りのことを子どもたちがしやすいように配慮し、保育士が見守っている。発達や状況に応じ、「先生、あのね」と自発的に言えるように気づきや発見を大切に保育を行っている。また、できる限り見守り、成功体験を実感できるように配慮している。
 53) 非該当
 54) 家具やおもちゃなど木の素材を多く使用し、あたたかさを出せるように工夫がされている。また、お迎えのときにパーソナルシートや連絡帳を活用し、保育園の様子などを保護者に共有できるようにしている。必要に応じて相談に乗ったり、関係機関につなげるように配慮している。障害児保育の研修に参加し情報収集に努めている。
 55) 19時までの延長保育を実施しており、18時半には年齢にあったおやつを提供している。長時間の保育を受けている子どもに対しては、パーソナルシートや連絡帳を活用して一日の様子を伝えるなど、保護者との連携を密にしている。
 56) 非該当
 57) マニュアルを整備するとともにしおりや入り口の掲示板を活用して必要な情報について保護者と情報共有している。SIDS対策として研修を受講するとともに午睡中は10分間隔で呼吸確認を行っている。
 58) 内科健診を年2回、歯科健診は2歳児以上を対象として年1回実施している。内科検診等、事前に保護者から確認したい事項を聞き取り、検診時に医師に確認している。結果は保護者に伝えるとともに職員で共有をし、保育に反映させている。
 59) アレルギー疾患の子どものことについては、医師の診断書に基づき管理栄養士が対応している。また、机イスなど専用のものを用意しているが疎外感を覚えないように配慮している。診断書を年1回提出してもらっている。
 60) 食器の材質も陶器に近い強化磁器を使用するなどの工夫がされている。0歳児は1対1の関係性が保てるようにし、1・2歳児は異年齢で食事することで発達を促している。
 61) 毎月、給食委員会を開催し現場の意見を取り入れ、季節感や行事食など献立や調理を工夫している。衛生管理マニュアルを整備し衛生管理を行っている。

A-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	項番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	①	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	a
	A-2-(2) 保護者等の支援	63	①	保護者等が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	a
		64	②	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	a
	A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	①	保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	a

[自由記述欄]

62) 送迎の際のコミュニケーションに加え、パーソナルシートを毎日、保護者に提供し、日々の様子を伝えている。パーソナルシートはシステムの中にあるため職員間での共有もできている。また保護者に24時間表を記入してもらうことにより、家庭での様子も把握している。
 63) 保護者会との関係が密であり、保護者会と共に安心して子育てができる体制である。個別な相談内容は適切に記録して職員間の共有や場合によっては関係機関と連携して対応している。個別には必要に応じて個人懇談をしている。
 64) 「虐待防止マニュアル」に基づき対応している。必要に応じて市の子ども総合相談センターと連携を図っている。保護者支援として要観察の事例もある。事例においては職員会議で全体共有して虐待予防に努めている。
 65) 年に2回、法人規定による業務に関する自己評価及び個人面談を実施している。園独自としては年1回、個別に業務の振り返り面談をしている。保育士主体で研修委員会を設け園内研修を実施し、お互いの学びあいや意識の向上に繋げている。